

令和3年 畑作・野菜病害虫発生情報 第13号

作物名：飼料作物（牧草・とうもろこし類）

病害虫名：アワヨトウ・ツマジロクサヨトウ

アワヨトウ幼虫の発生が確認されました。発生量は少ない状況ですが、中老齢幼虫による食害盛期は「7月上旬～7月中旬」と予想されます。常発地の牧草地やとうもろこし畑では、幼虫の食害に注意しましょう。
疑わしい虫を発見した場合は、病害虫防除所にお問合せください。

1. アワヨトウ幼虫の発生状況

(1) 6月上中旬調査では幼虫食害は確認されていなかったが、6月下旬の採草地調査において津軽地域で2地点、県南地域で3地点で若～中齢幼虫が確認された（表1、図1）。また、県南地域の小麦1ほ場でアワヨトウ老齢幼虫が捕獲されている。

一方、デントコーン及びスイートコーンのとうもろこし類畑では、県南地域の2地点で中齢幼虫による食害株が確認された（表2、図2）。なお、捕獲された幼虫はすべて緑色個体の若～中齢幼虫である。産卵盛期を6月中旬として、幼虫の食害盛期は7月上中旬頃と予想される。

表1 採草地におけるアワヨトウ幼虫の捕獲状況（6月下旬 20回振すくい取り調査）

採草地	調査地点数	発生程度別地点数					捕獲地点率 (%)	1㎡当り平均幼虫数	総捕獲幼虫数	年齢構成		
		甚	多	中	少	微				若齢	中齢	老齢
津軽地域	8	0	0	0	0	2	25.0	0.02	9	7	2	0
県南地域	20	0	0	0	0	3	15.0	0.01	6	5	1	0

表2 とうもろこし類畑におけるアワヨトウ幼虫の捕獲状況（6月下旬 1000株調査）

とうもろこし類	調査地点数	発生程度別地点数					捕獲地点率 (%)	1㎡当り平均幼虫数	総捕獲幼虫数	年齢構成		
		甚	多	中	少	微				若齢	中齢	老齢
津軽地域	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南地域	14	0	0	0	0	2	14.3	0.00	2	0	2	0

注) 発生程度基準(1㎡当たり寄生幼虫数)：微=1頭未満、少=1～10頭、中=11～50頭、多=51～100頭、甚；101頭以上。
アワヨトウ幼虫の年齢識別目安：若齢幼虫=頭幅1mm以下、中齢幼虫=頭幅2mm前後、老齢幼虫=頭幅3mm以上。



図1 アワヨトウ幼虫の捕獲地点(採草地)

注) ○調査地点 ●幼虫捕獲地点
(▲小麦での捕獲地点)

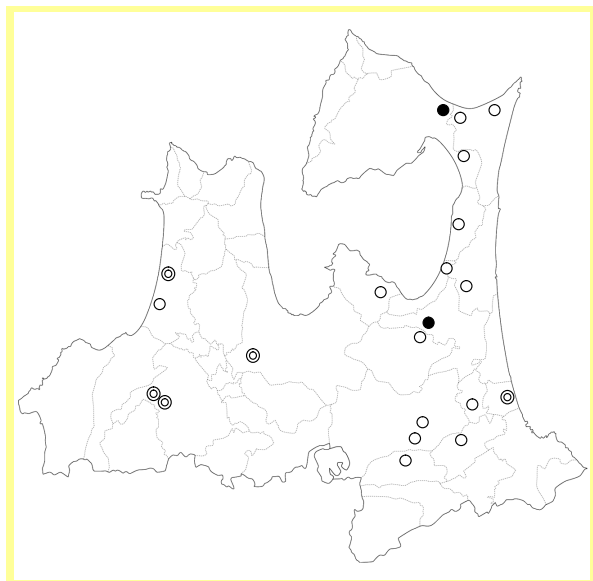


図2 アワヨトウ幼虫の捕獲地点(とうもろこし類)

注) ○デントコーン調査地点 ●幼虫捕獲地点
◎スイートコーン調査地点



〔参考 多発型黒化幼虫と採草地での被害状況〕

〔デントコーンの食害株〕

2. ツマジロクサヨトウ幼虫の発生状況

- (1) 県内6地点に設置した性フェロモントラップのうち、津軽地域で6月1半旬と6月5半旬に、県南地域で5月4半旬と6月2半旬に各1頭ずつ誘殺されているが、6月下旬にアワヨトウ調査と並行して食害調査を実施したところでは、県内各地域の飼料用とうもろこし及びスイートコーンでの食害は確認されていない。



〔参考 アワヨトウの頭部の模様は「八の字」に対して、ツマジロクサヨトウの頭部の模様は逆Y字状〕

3. 今後の防除対策

食害株を認めたほ場では以下の点に注意して防除を行う。

- (1) 早期発見に努め、老齢幼虫になると防除効果が劣るので、若中齢幼虫のうちに各作物毎・適用害虫に登録のある殺虫剤を散布する。
- (2) 収穫間近の採草地では早めに刈り取りを行う。薬剤を散布した草地では家畜の放牧を控え採草給与しない。
- (3) とうもろこし類では、出穂前の若い茎葉を好んで食害し、成長した幼虫は芯部に潜行する特徴があるので、株の上部からのぞき込むようにして、芯部の汚れ(虫糞)を目安に丁寧に観察し、食害株は見つけ次第抜き取る。

県民の皆さまへのお願い
新型コロナウイルス感染拡大防止

<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>

《この情報に関する問い合わせ先》

青森県病害虫防除所 TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900
 〒030-0113 青森市第二問屋町4-11-6
 E-mail: byogaichu@pref.aomori.lg.jp

担当：主幹専門員 及川 健

※当情報は青森県農業情報サービスネットワーク「アップル農場：<https://www.applenet.jp>」に掲載しています。